

山形県には、「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」などの良食味のお米、初夏の味覚である「佐藤錦」「紅秀峰」などのさくらんぼや西洋なし「ラ・フランス」を代表とする果樹、季節を届けるすいか、メロン、えだまめなどの野菜、生活を彩るバラ、「啓翁桜」、アルストロメリアなどの花き、「総称山形牛」や銘柄豚、「やまがた地鶏」などの畜産物、素材の特性を引き出し付加価値を高めた農産加工品等々、四季折々のおいしさや華やかさを兼ね備えた農産物が多数あります。

これらは、山形県の豊かな自然と誠実な県民性が築き上げてきた高い農業技術力に加え、新品種や新技術の普及拡大に、生産者の皆様、市町村、JAグループ等関係機関とオール山形で取り組んできたことによるものと考えております。

一方で、担い手の高齢化と減少、全国的な米の新品種デビューによる産地間競争の激化、地球温暖化による気象変動の拡大、新型コロナウイルスの感染拡大等による米の需要量の減少など、農業を取り巻く情勢は大きく変化してきております。

このような中、本県農業の持続的な発展、そして農業者の所得向上を図っていくには、多様なニーズに応じた米の安定生産技術、地球温暖化の進展等も踏まえた新たなオリジナル品種、さくらんぼ新品種「やまがた紅王」の高品質・安定生産技術、美味しさの見える化等県産農産物のブランド力向上につながる技術、輸出も見据えた低コスト・多収栽培技術、更には近年の多様な担い手の増加や経営規模の拡大を踏まえたICTを活用したスマート農業技術等の開発と普及により、多様な農業の担い手が夢と誇りを持って農業に取り組むことができるよう技術的な支援に一層努めていくことが当センターの重要な役割と考えております。

当センターでは農業情勢の変化に対応し、生産現場で活用してもらえる研究成果を、より多く発信できるよう一体となって取り組むとともに、得られた成果の速やかな技術移転に努めてまいりますので、今後とも関係者の皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

山形県農業総合研究センター  
所長 卯月恒安

